

平成29年12月



新日見トンネル 地域活性化シンポジウム開催 ～ 道路への想いを次世代につなぎ、新たな発展へ ～

■ 新日見トンネル着工記念 地域活性化シンポジウム

平成30年2月11日(日)、長崎県勤労福祉会館において『新日見トンネル着工記念 地域活性化シンポジウム』を開催しました。新日見トンネルが位置する日見峠は「西の箱根」と呼ばれ、各時代の道路への熱い思いが、この長崎を発展させて来ました。平成29年度に新日見トンネルは着工し、このトンネル整備により、新たな時代を切り開く道路整備が完成します。本シンポジウムは、「日見峠」の道路整備の歴史を振り返りながら、新日見トンネルの整備を機に、長崎の発展について考えることを目的に開催しました。会場は、長崎における道路の歴史・文化に興味のある方、新日見トンネル整備に期待される方など、約300人の多くの方々にご来場頂きました。



■ 開催挨拶



長崎市
田上市長



道守長崎会議
牧代表世話人



長崎河川国道
事務所 垣原所長



主催者挨拶では、一般国道34号道路整備促進協議会会長の田上富久長崎市長より、新日見トンネルの整備による4車線化によって、交通混雑の緩和などへの期待を込めたコメントを頂きました。また、道守長崎会議牧代表世話人からは、道守活動を通じた道路への思いをコメント頂き、長崎河川国道事務所垣原所長からは、大正15年に日見トンネルが開通した際、約7万人が集結して祝っており、こういった道路への熱い想いを次世代に引き継いで行きたいことを述べました。

■ プログラム

〈基調講演〉



長崎大学岡林名誉教授より、「道路の近代化と日見峠の変遷」と題して、江戸時代の現道や明治時代の古写真等を提示しながら、日見峠では、近代化の時代に人や物資を運ぶため、市民の努力で整備されたことを説明頂きました。

また、長崎に現存する日本初の石橋や鉄筋コンクリート橋等の歴史的資産を、過去の変遷について着目することで魅力的な資源となり、地域活性化につなげることができる旨、ご講演頂きました。

〈パネルディスカッション〉



『「道路整備の変遷」と「道路整備を契機とした長崎の更なる発展」に向けた方策』をテーマに、パネルディスカッションを実施しました。長崎大学岡林名誉教授(写真左)にコーディネータを、(写真右の左から)長崎県トラック協会井石副会長、(株)長崎文献社川良副編集長、新大工商店街振興組合古賀理事長、長崎市吉田土木部長、長崎河川国道事務所垣原事務所にパネラーをつとめて頂きました。

井石副会長から、「東長崎から運送するトラック運送の利便性が高まり物流効率が飛躍的に改善され

〈国道34号 新日見トンネル事業概要説明〉



長崎河川国道事務所垣原所長より、日見バイパスの事業について、新日見トンネルの区間を除き、4車線の整備が完了しており、新大工町等では、街並みとも調和している旨、説明がありました。

また、新日見トンネルの事業について、平成29年12月17日に新日見トンネル着工式典が行われ、現在、順調に工事を進めていることや新日見トンネル坑口を日見トンネルのデザインに統一する予定であることなどの報告がありました。

ること」を、川良副編集長からは、「新日見トンネルの整備は、東長崎地区の観光振興に効果的であること」を、古賀理事長から、「商店街の活性化のためには、高齢者が立ち寄りやすくするためのバリアフリー化や道路利用者にいかにして寄ってもらうか工夫が必要であること」を、各立場からご意見を頂きました。

最後に、岡林名誉教授より、長崎街道や国道34号を活用した今後の地域活性化について、幅広い観点から活発なご議論が行われ、大変、有意義であった旨、締めくくって頂きました。

■ 着工記念展示

長崎大学岡林名誉教授が所蔵する長崎における道路整備の変遷や長崎の街並みなどの写真、当時のパンフレットなどを厳選して展示しました。

多くの来場者が、歴史・文化的な価値の高い展示に見入っていました。



【この資料のお問い合わせ】

長崎県長崎市宿町316-1 国土交通省九州地方整備局長崎河川国道事務所 調査第二課 TEL:095-839-9211